

予報期間 10月23日から10月29日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 25日は、高気圧が千島の東へ移動する。前線が日本の南から沖縄付近にのびる。
- 26日は、前線上に発生した低気圧が日本の東へ進み、別の低気圧が北日本付近に進む。
- 27日は、低気圧が発達しながらオホーツク海に進む。大陸の高気圧が日本付近に張り出し、西高東低の気圧配置となる。
- 28日は、発達した低気圧がオホーツク海をゆっくり進み、大陸の高気圧が移動性となって朝鮮半島付近に移動する。
- 29日は、高気圧が東日本付近に移動する。

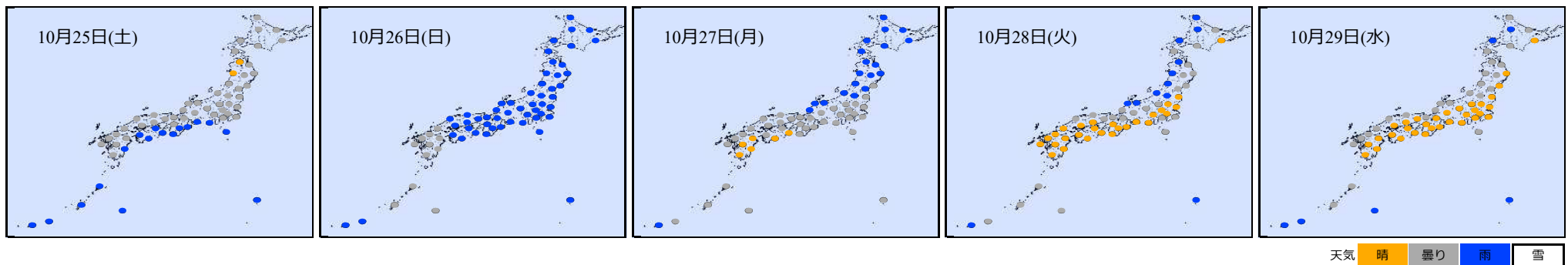
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 26日頃は、伊豆諸島では前線の影響で大雨となり、前線の活動の程度によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

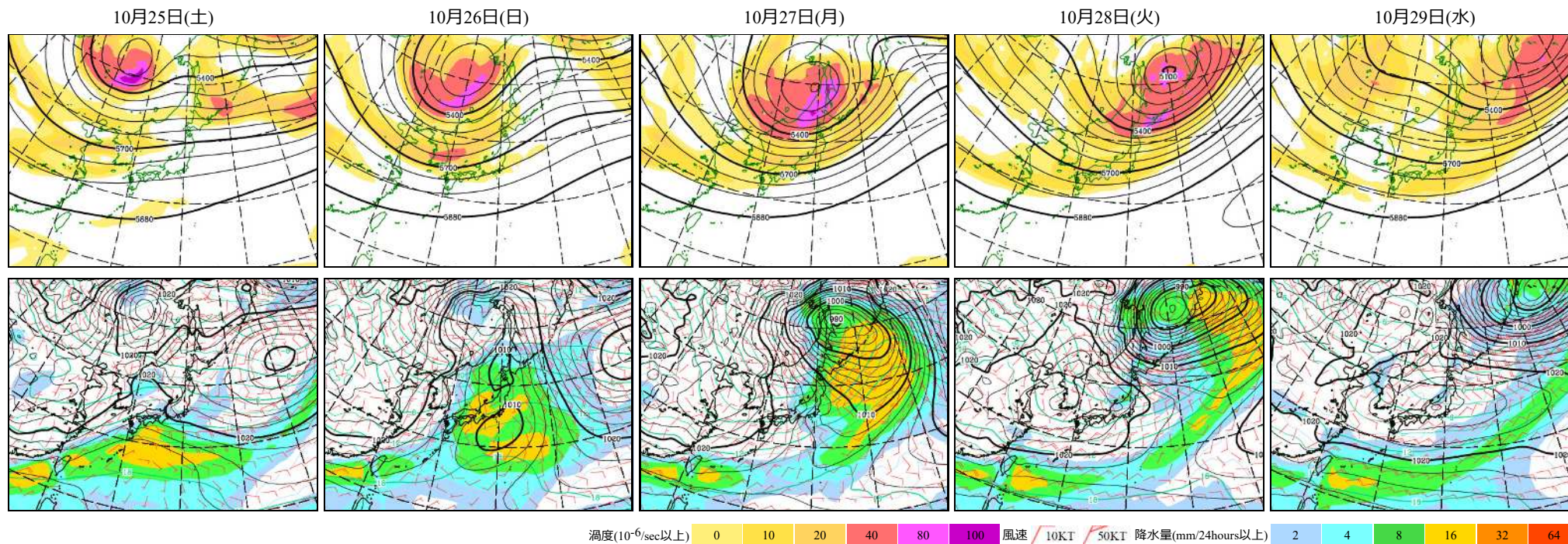
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

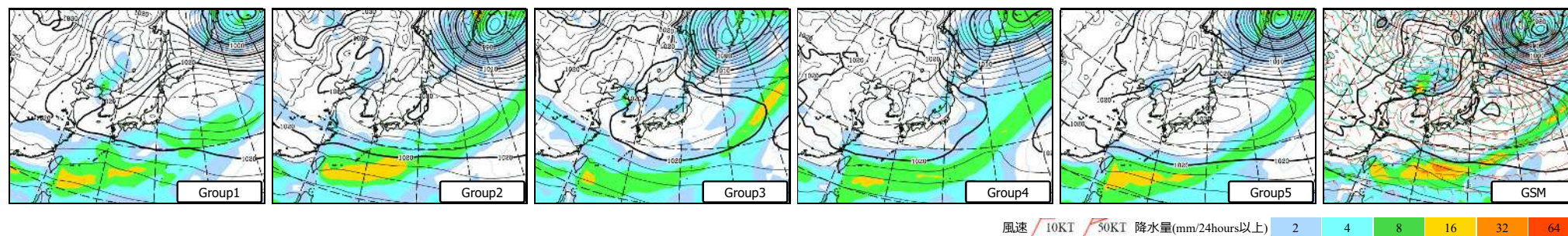


- 北日本と東日本日本海側は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本太平洋側と西日本は、曇りや晴れの日が多いが、25日と26日は雨の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月29日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、26日から28日にかけて北日本付近からオホーツク海に進む低気圧が強くなり南に寄った。
- 降水確率ガイダンスの値は、26日に東日本、西日本で大きくなり、27日に北日本で大きくなった。
- 26日の本州付近の低気圧は、日本モデルは北日本付近と本州の南の二つに分かれている一方で、海外モデルでは南北に長いものの分離は不明瞭になっているという違いがあるが、東西の位置は概ね揃っている。27日のオホーツク海の低気圧の位置はモデル間に差がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。